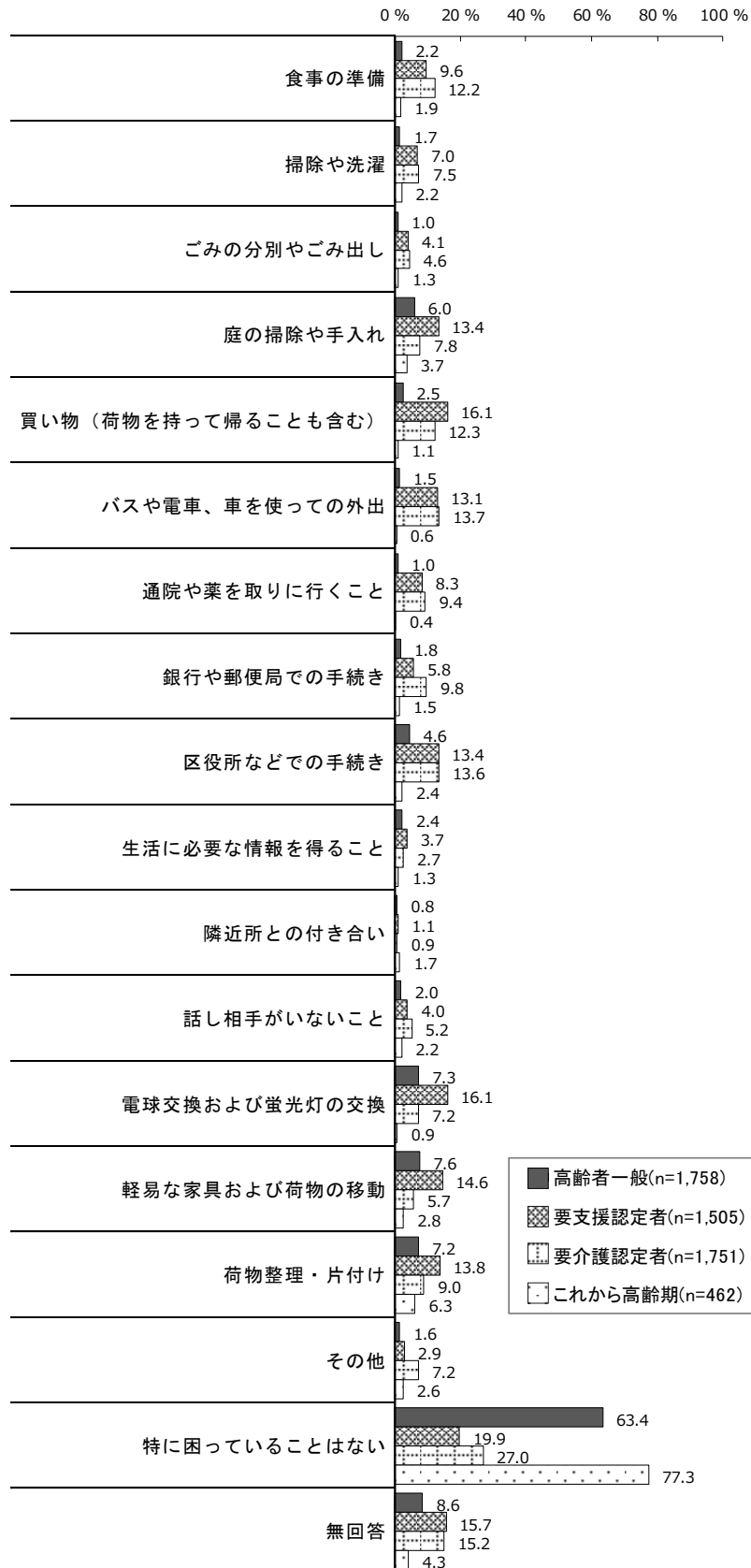


9. 日常生活の状況

(1) 日常生活の中での困りごと

○いずれの調査でも、「特に困っていることはない」が最も高く、高齢者一般で63.4%、要支援認定者で19.9%、要介護認定者で27.0%、これから高齢期で77.3%となっている。

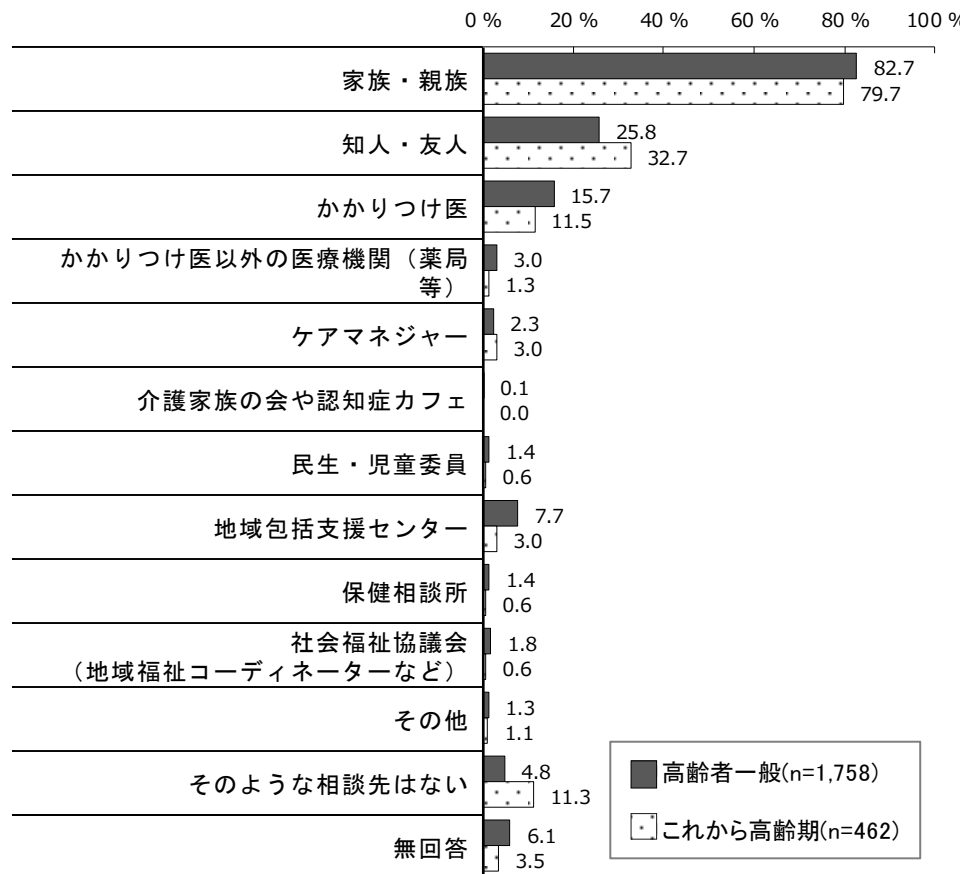
(複数回答)



(2) 日常生活で困った場合の相談先

○いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、高齢者一般で82.7%、これから高齢期で79.7%となっている。

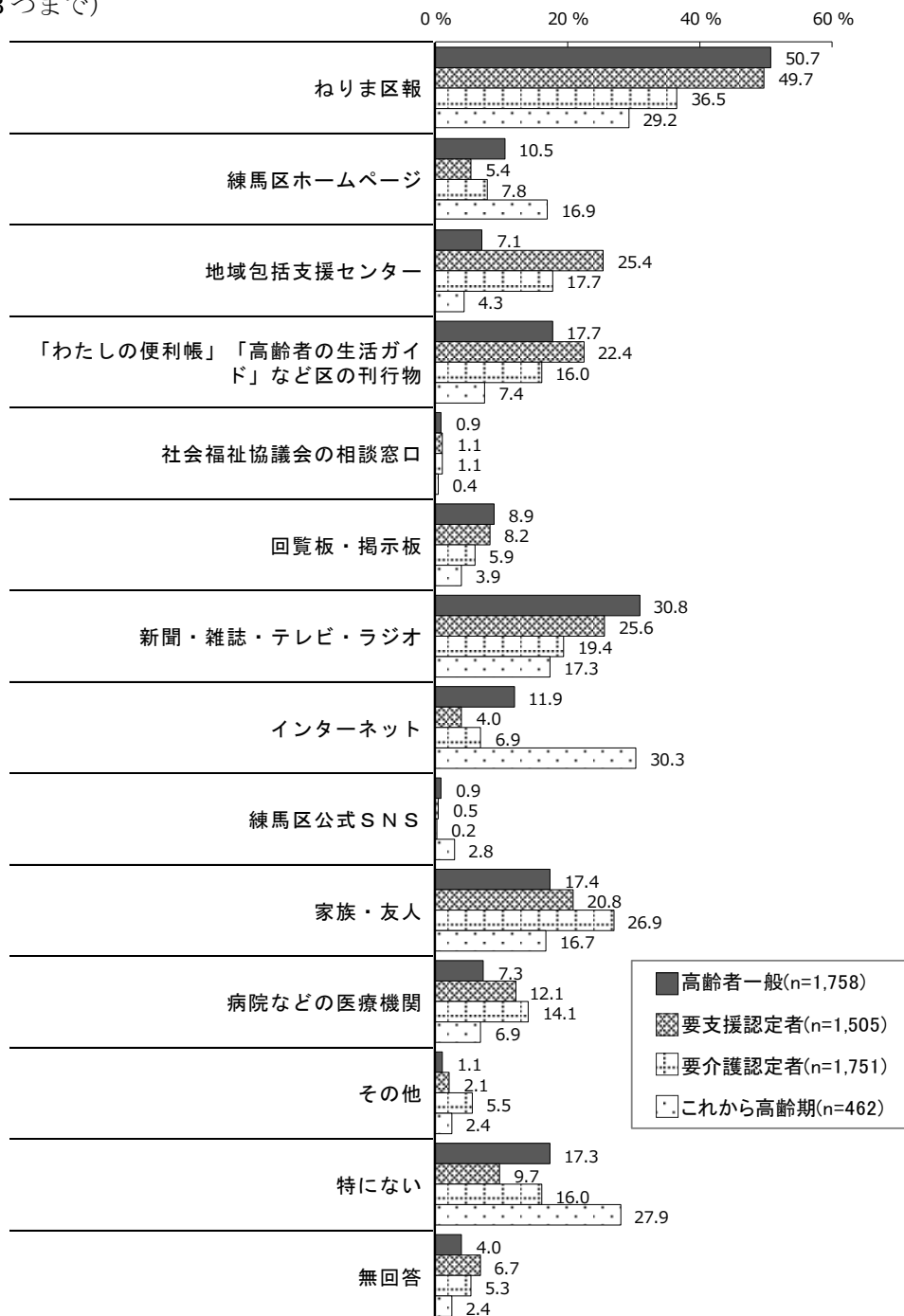
(複数回答)



(3) 保健福祉や介護保険に関する情報の入手方法

- 高齢者一般では、「ねりま区報」(50.7%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(30.8%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「ねりま区報」(49.7%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(25.6%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「ねりま区報」(36.5%)が最も高く、次いで「家族・友人」(26.9%)の順となっている。
- これから高齢期では、「インターネット」(30.3%)が最も高く、次いで「ねりま区報」(29.2%)の順となっている。

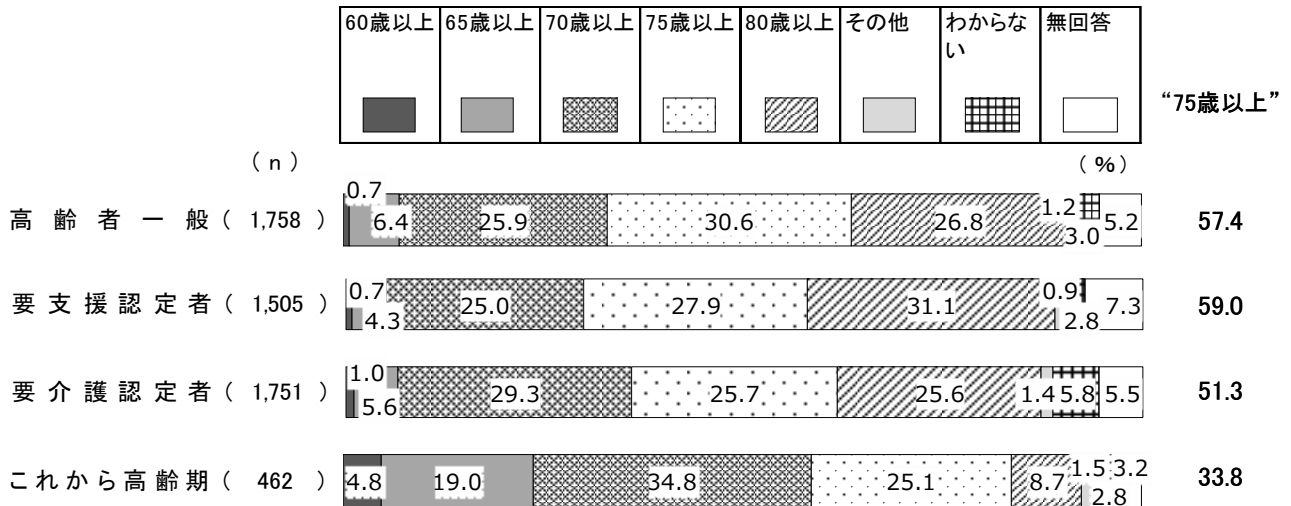
(○は3つまで)



(4) 高齢者だと思う年齢

○ “75歳以上”（「75歳以上」と「80歳以上」の合計）は、高齢者一般で57.4%、要支援認定者で59.0%、要介護認定者で51.3%、これから高齢期で33.8%となっている。

○これから高齢期では、「70歳以上」が34.8%と他の調査と比べて高くなっている。



[高齢者だと思う年齢<経年比較(高齢者一般)>]

○令和4年度の調査結果と比較すると、大きな違いはみられない。

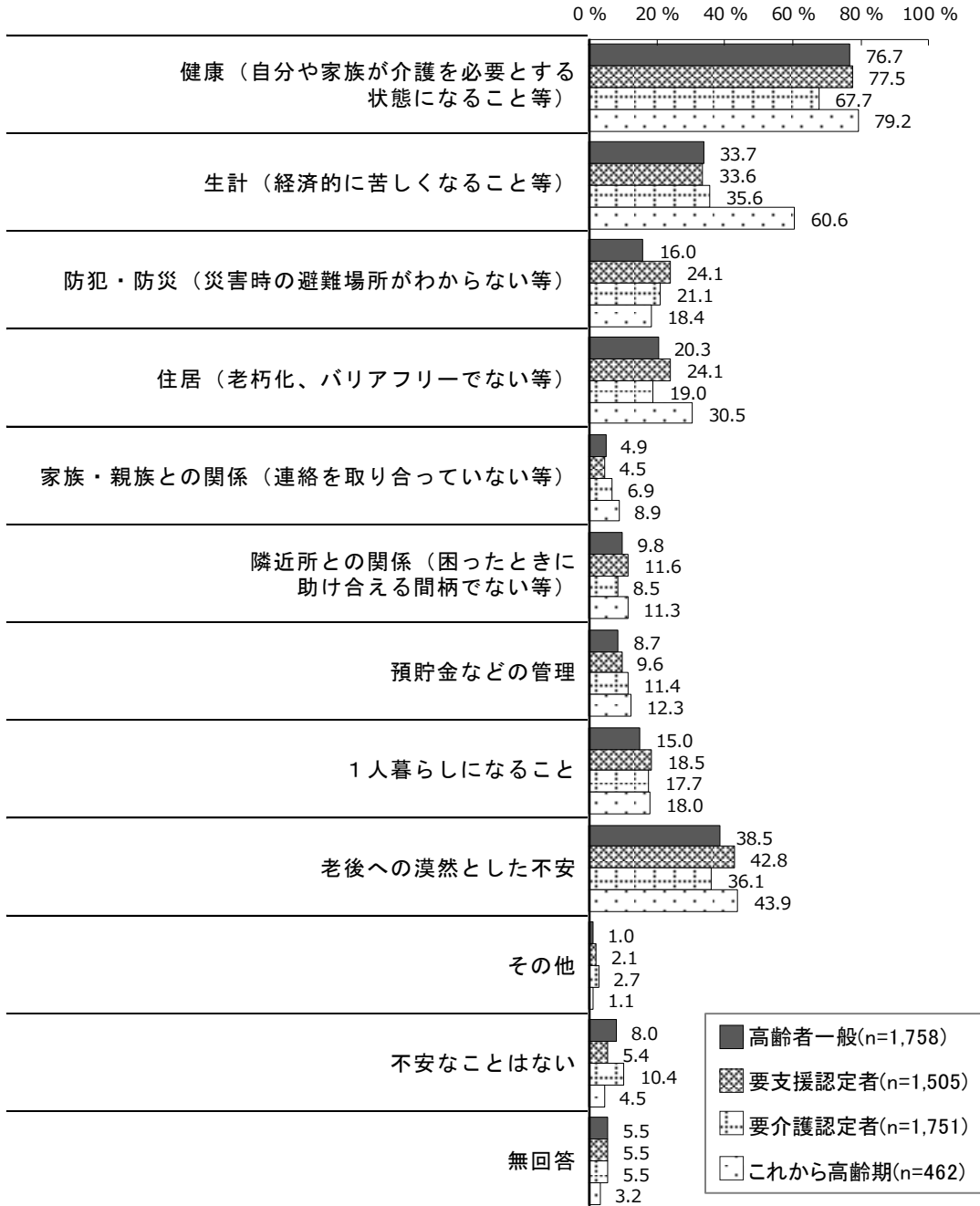
	n	60歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	その他	わからない	無回答	75歳以上
令和7年度	1,758	0.7	6.4	25.9	30.6	26.8	1.2	3.0	5.2	57.4
令和4年度	1,516	0.4	5.4	26.7	33.4	28.0	1.8	-	4.3	61.3

(5) 将来の不安

○いずれの調査でも「健康（自分や家族が介護を必要とする状態になること等）」が最も高く、高齢者一般で76.7%、要支援認定者で77.5%、要介護認定者で67.7%、これから高齢期で79.2%となっている。

○これから高齢期では、「生計（経済的に苦しくなること等）」が60.6%と他の調査と比べて高くなっている。

(複数回答)

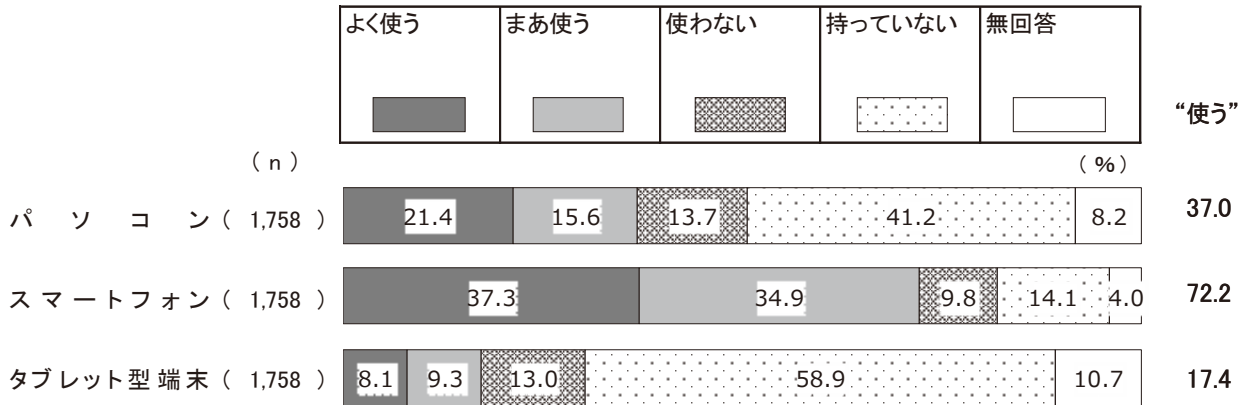


(6) スマートフォン等の情報通信機器の使用状況

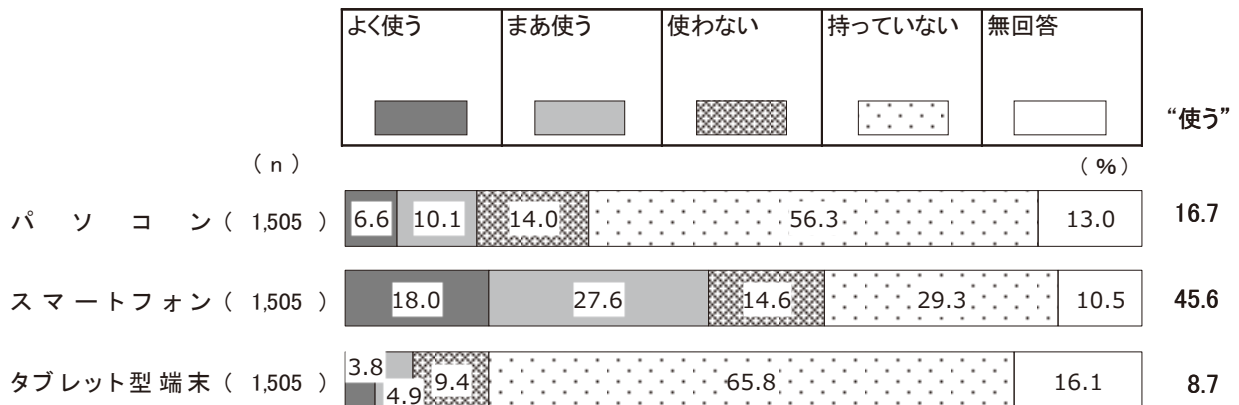
①使用状況

○スマートフォンを“使う”（「よく使う」と「まあ使う」の合計）は、高齢者一般で72.2%、要支援認定者で45.6%、要介護認定者で30.0%、これから高齢期で92.9%となっている。

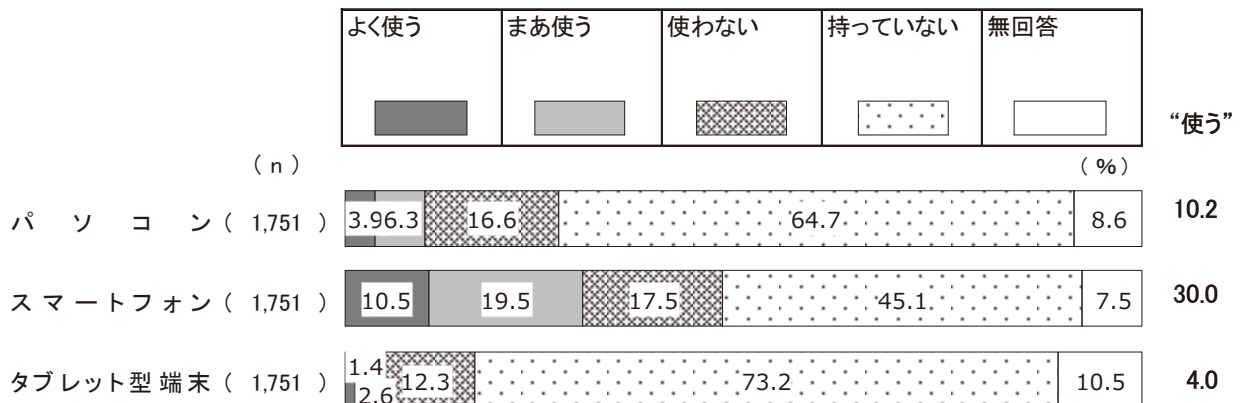
(高齢者一般)



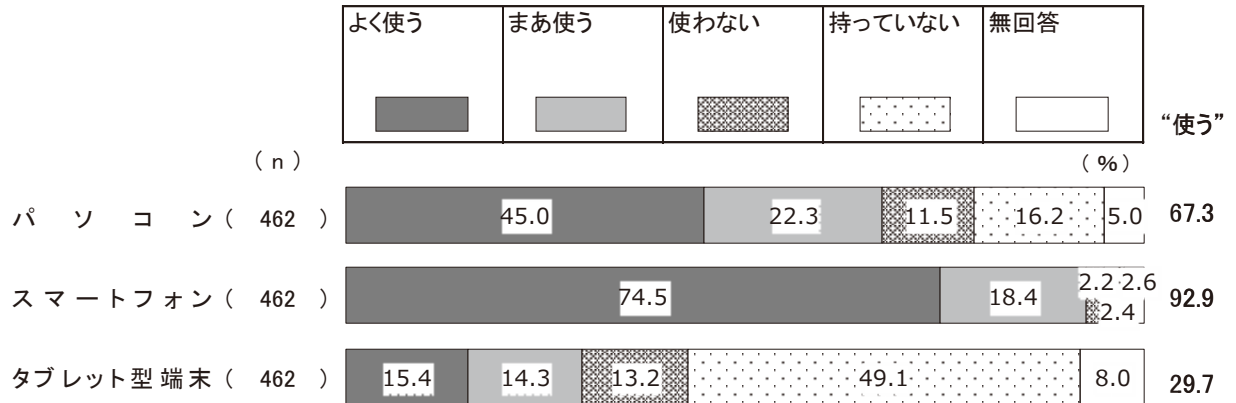
(要支援認定者)



(要介護認定者)



(これから高齢期)



[使用状況<年代別(高齢者一般)>]

○年代別にみると、「前期高齢者」は、いずれの情報通信機器でも、“使う”が「後期高齢者」と比べて高くなっている。

	n	よく使う (%)	まあ使う (%)	使わない (%)	持っていない (%)	無回答 (%)	使う (%)
パソコン	1,758	21.4	15.6	13.7	41.2	8.2	37.0
前期高齢者 (65歳-74歳)	648	30.7	21.0	13.4	29.6	5.2	51.7
後期高齢者 (75歳以上)	1,064	15.7	12.6	13.8	48.4	9.5	28.3
スマートフォン	1,758	37.3	34.9	9.8	14.1	4.0	72.2
前期高齢者 (65歳-74歳)	648	52.9	31.8	6.3	6.8	2.2	84.7
後期高齢者 (75歳以上)	1,064	27.7	37.6	11.8	18.1	4.7	65.3
タブレット型端末	1,758	8.1	9.3	13.0	58.9	10.7	17.4
前期高齢者 (65歳-74歳)	648	13.6	12.2	14.0	52.5	7.7	25.8
後期高齢者 (75歳以上)	1,064	4.6	7.6	12.5	63.3	11.9	12.2

[使用状況<経年比較(高齢者一般)>]

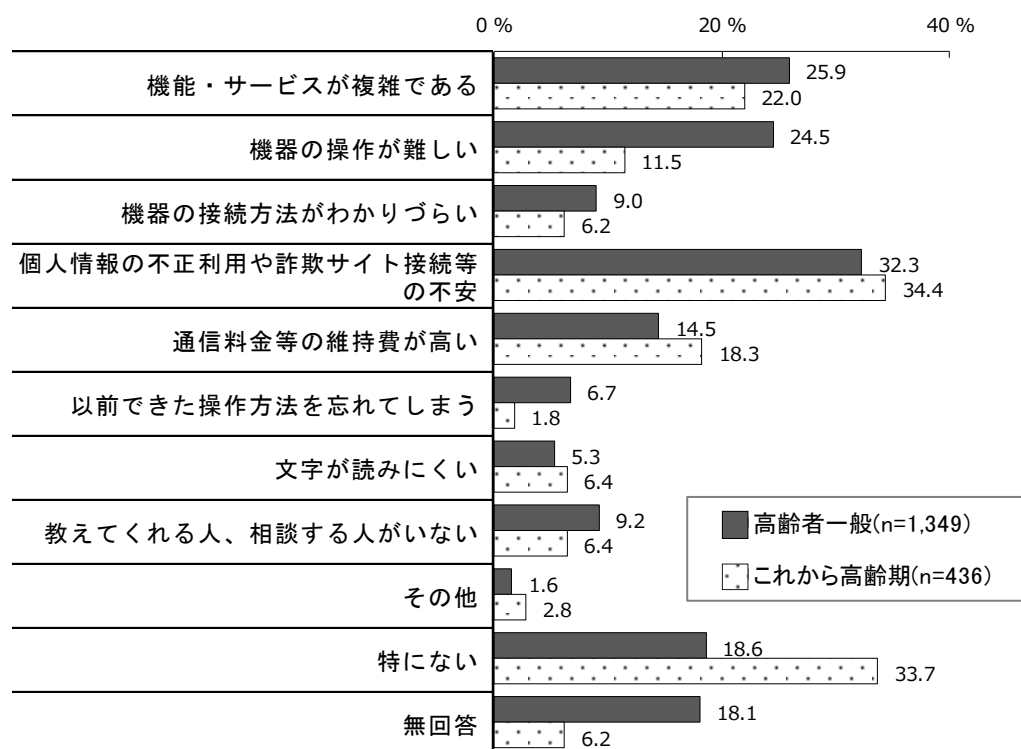
○令和4年度の調査結果と比較すると、スマートフォンを“使う”が10.1ポイント高くなっている。

	n	よく使う (%)	まあ使う (%)	使わない (%)	持っていない (%)	無回答 (%)	使う (%)
令和7年度	1,758	37.3	34.9	9.8	14.1	4.0	72.2
令和4年度	1,516	32.5	29.6	8.5	18.9	10.6	62.1

②情報通信機器の使用にあたっての困りごと

- いずれかの情報通信機器を“使う”と回答した人で、“何らかの困りごとがある”（「特にない」と無回答を除く）と回答した人は、いずれの調査でも6割台となっている。
- いずれの調査でも、「個人情報の不正利用や詐欺サイト接続等の不安」が最も高く、高齢者一般で32.3%、これから高齢期で34.4%となっている。
- これから高齢期では、「特にない」が33.7%となっている。

(○は3つまで)



[情報通信機器の使用にあたっての困りごと<性・年代別(高齢者一般)>]

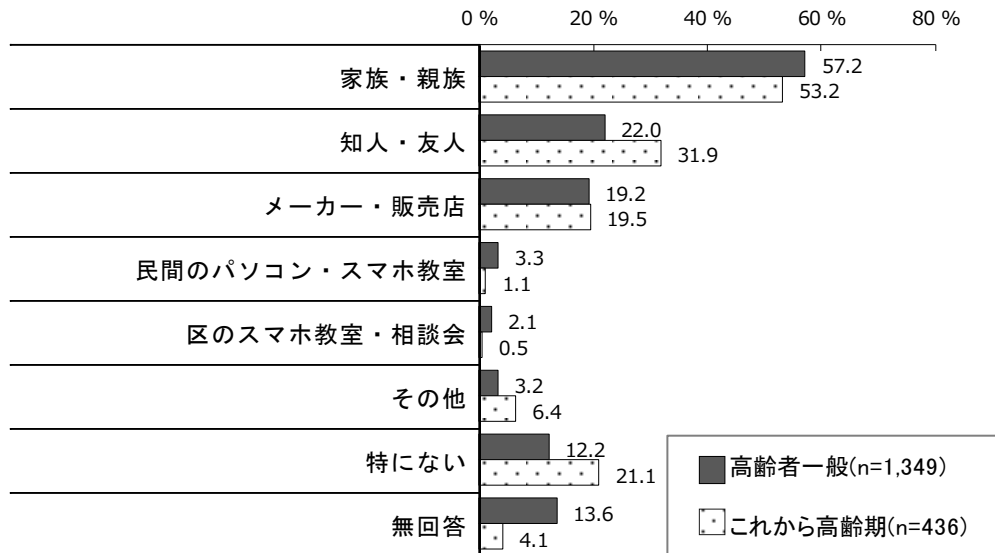
- 性・年代別にみると、「男性・前期高齢者」は、「特にない」が他と比べて高くなっている。

	n	が機能・サービスが複雑である	し機器の操作が難しい	が機器の接続方法がわかりづらい	ト利用や情報の不正利用等の不安	個人情報が漏れる等の不安	通信料金等の維持費が高い	ま方法を忘れてしまった	い文字が読みにくい	が人、教えない、相談する人がいない	その他	特にない	無回答
全体	1,349	25.9	24.5	9.0	32.3	14.5	6.7	5.3	9.2	1.6	18.6	18.1	
男性・前期高齢者(65歳-74歳)	265	26.0	20.8	7.5	34.3	20.4	4.5	4.9	6.8	0.8	27.2	9.8	
男性・後期高齢者(75歳以上)	296	24.7	23.6	10.5	27.0	13.2	11.5	6.4	11.8	0.7	19.3	18.9	
女性・前期高齢者(65歳-74歳)	312	30.1	23.1	9.9	39.4	15.7	2.9	5.8	7.7	1.9	18.9	15.1	
女性・後期高齢者(75歳以上)	447	24.2	29.1	8.3	30.6	10.7	7.8	4.7	10.3	2.0	13.4	23.3	

③情報通信機器の使用にあたっての相談先

○いずれの調査でも、「家族・親族」が最も高く、高齢者一般で57.2%、これから高齢期で53.2%となっている。

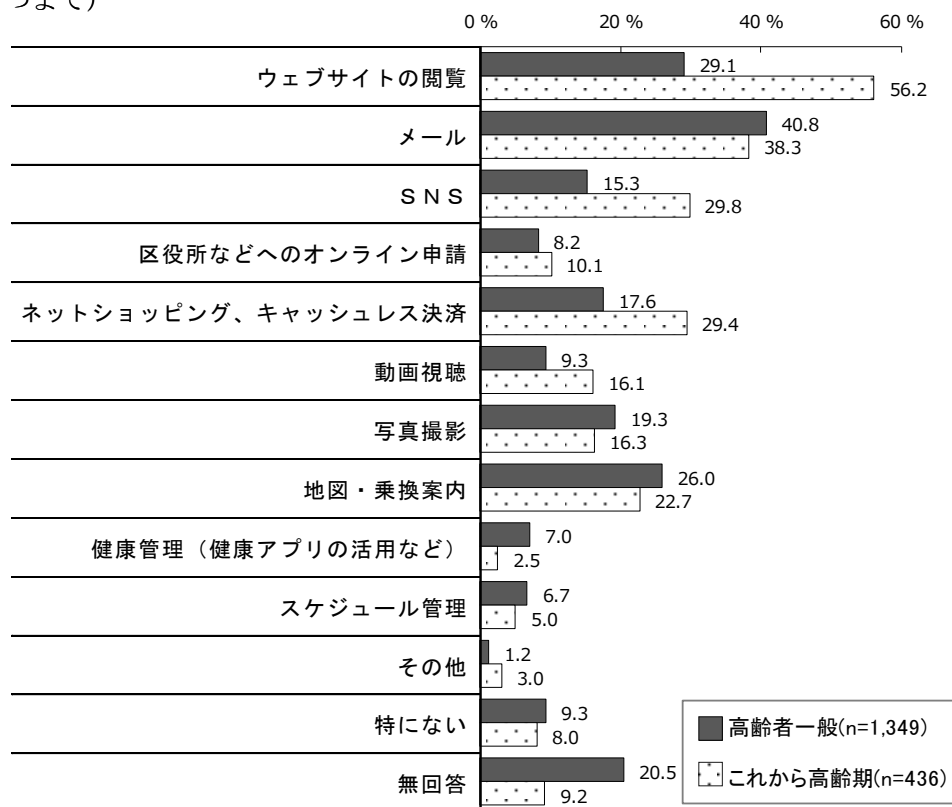
(○は3つまで)



④情報通信機器で使用したい機能

- 高齢者一般では、「メール」(40.8%)が最も高く、次いで「ウェブサイトの閲覧」(29.1%)の順となっている。
- これから高齢期では、「ウェブサイトの閲覧」(56.2%)が最も高く、次いで「メール」(38.3%)の順となっている。

(○は3つまで)



[情報通信機器で使いたい機能<性・年代別(高齢者一般)>]

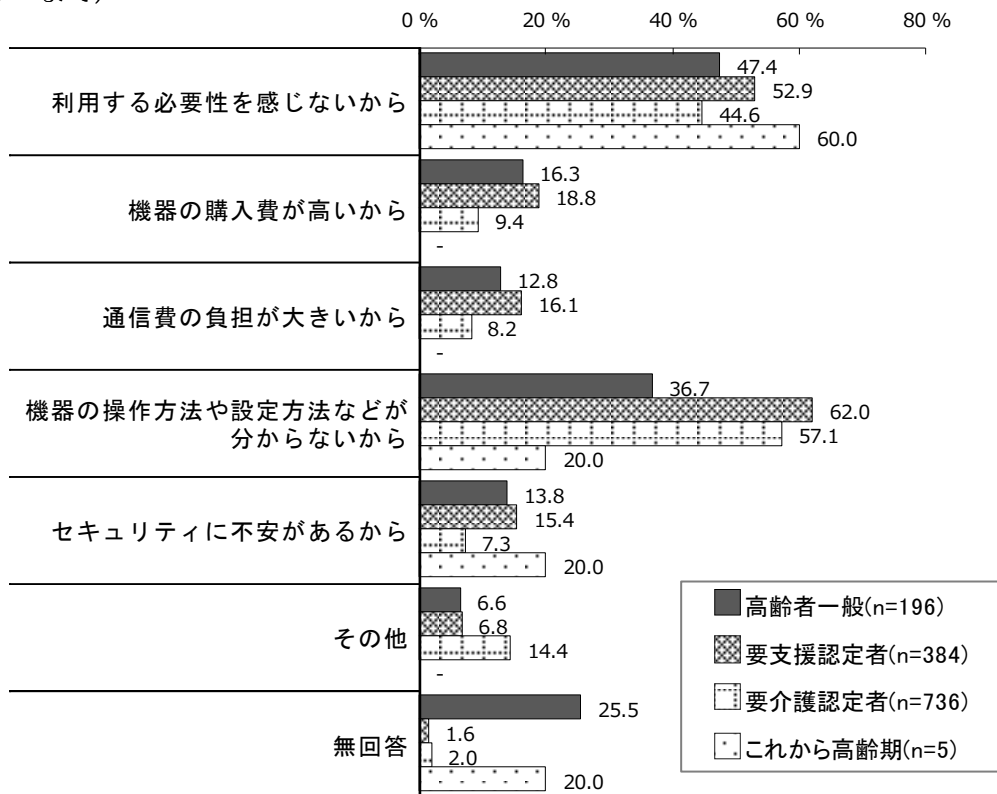
- 性・年代別にみると、「男性・前期高齢者」は、「ウェブサイトの閲覧」が54.0%で、全体と比べて高くなっている。
- 「前期高齢者」および「後期高齢者」ともに「写真撮影」は「女性」が「男性」と比べて高くなっている。
- 「女性・前期高齢者」は、「地図・乗換案内」が34.0%で、他と比べて高くなっている。

	n	ウェブサイトの閲覧	メール	SNS	区役所などへのオンライン申請	ネットショッピング、キャッシュレス決済	動画視聴	写真撮影	地図・乗換案内	健康管理(健康アプリの活用など)	スケジュール管理	その他	特になし	無回答
全体	1,349	29.1	40.8	15.3	8.2	17.6	9.3	19.3	26.0	7.0	6.7	1.2	9.3	20.5
男性・前期高齢者(65歳-74歳)	265	54.0	46.0	21.5	9.8	25.3	17.4	8.7	20.4	7.2	7.5	0.4	6.8	15.1
男性・後期高齢者(75歳以上)	296	32.8	42.6	10.5	9.1	15.5	6.4	12.5	22.3	7.1	9.1	1.7	11.8	19.9
女性・前期高齢者(65歳-74歳)	312	29.2	32.7	21.2	7.7	22.4	8.7	24.0	34.0	6.4	5.8	1.3	7.7	18.6
女性・後期高齢者(75歳以上)	447	12.8	42.7	10.7	6.7	10.7	6.7	27.3	27.3	7.6	5.4	0.4	10.3	24.6

⑤ICT機器を持っていない理由

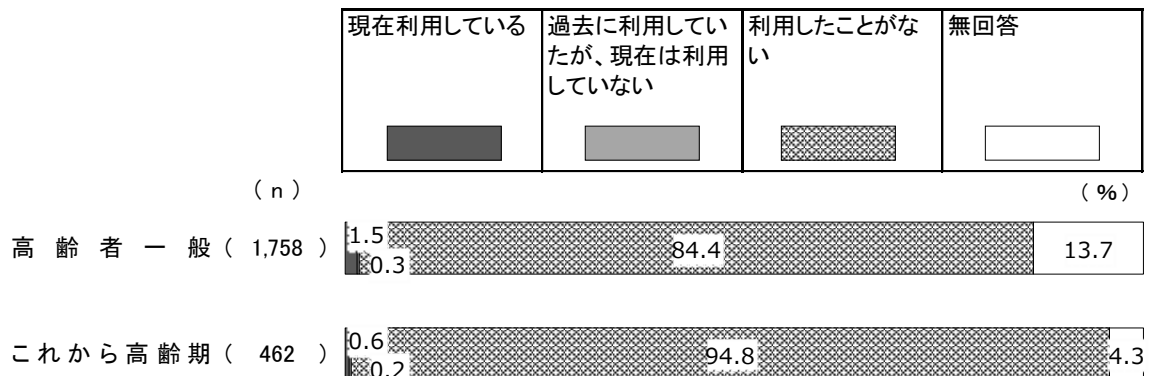
- 高齢者一般では、「利用する必要性を感じないから」(47.4%)が最も高く、次いで「機器の操作方法や設定方法などが分からないから」(36.7%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「機器の操作方法や設定方法などが分からないから」(62.0%)が最も高く、次いで「利用する必要性を感じないから」(52.9%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「機器の操作方法や設定方法などが分からないから」(57.1%)が最も高く、次いで「利用する必要性を感じないから」(44.6%)の順となっている。
- これから高齢期では、「利用する必要性を感じないから」(60.0%)が最も高く、次いで「機器の操作方法や設定方法などが分からないから」および「セキュリティに不安があるから」(ともに20.0%)の順となっている。

(○は3つまで)



⑥見守りICTサービスの利用状況

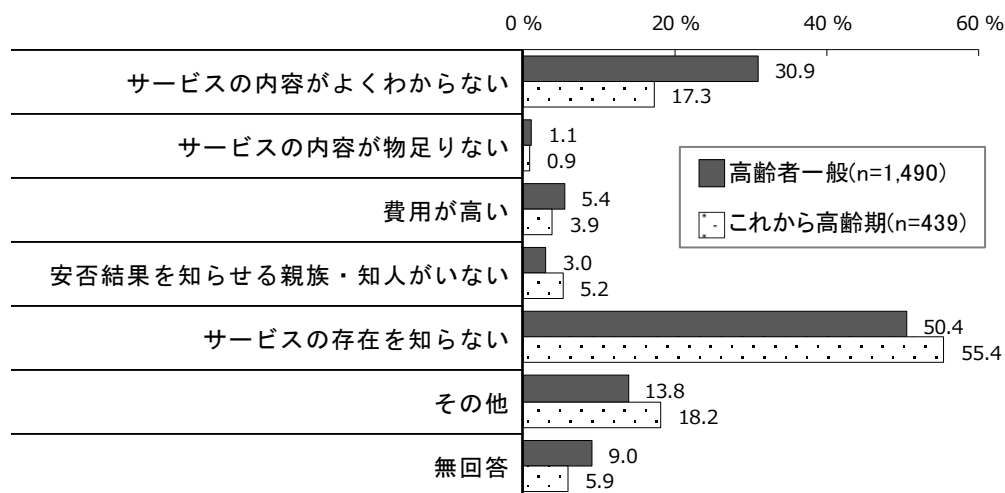
- いずれの調査でも“利用していない”(「過去に利用していたが、現在は利用していない」と「利用したことがない」の合計)の割合が高く、高齢者一般で84.7%、これから高齢期で95.0%となっている。



⑦見守りICTサービスを利用していない理由

○いずれの調査でも“利用していない”と回答した人の利用していない理由は、いずれの見守りICTサービスでも、「サービスの存在を知らない」が最も高く、高齢者一般で50.4%、これから高齢期で55.4%となっている。

(複数回答)



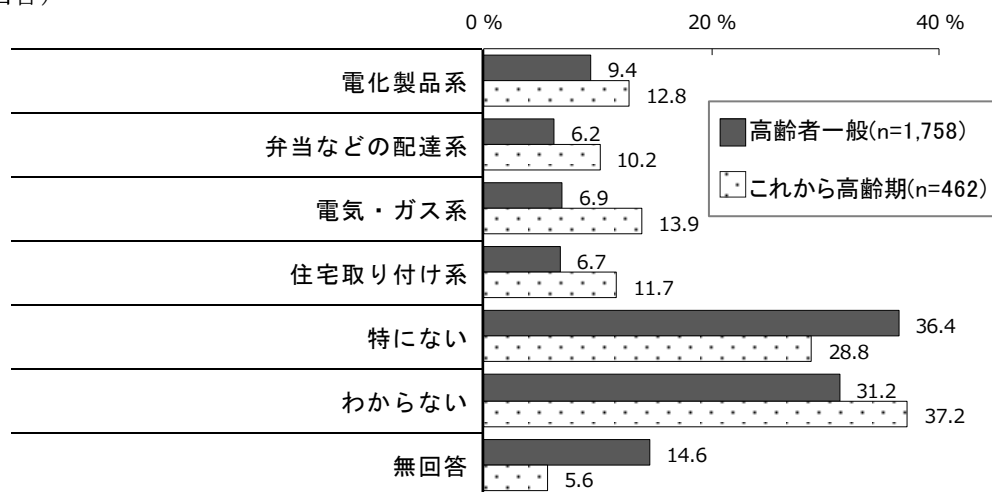
⑧利用してみたい見守りICTサービス

○高齢者一般では「特にない」(36.4%)が最も高く、次いで「わからない」(31.2%)の順となっている。

○これから高齢期では「わからない」(37.2%)が最も高く、次いで「特にない」(28.8%)の順となっている。

○利用してみたい見守りICTサービスとしては、高齢者一般では「電化製品系」が9.4%で最も高く、これから高齢期では「電気・ガス系」が13.9%で最も高くなっている。

(複数回答)



(7) 今後力を入れてほしい高齢者施策

- 高齢者一般では、「介護が必要にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」(24.8%)が最も高く、次いで「介護が必要な高齢者に対するサービスの充実」(23.6%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「介護が必要にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」(24.1%)が最も高く、次いで「健康管理・健康づくりへの支援」(22.5%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「介護が必要な高齢者に対するサービスの充実」(24.1%)が最も高く、次いで「介護している家族への支援」(23.8%)の順となっている。
- これから高齢期では、「介護している家族への支援」(27.9%)が最も高く、次いで「就労支援」(27.1%)の順となっている。

(○は3つまで)

